



ユア・ソング

Your Song / Elton John

1970年発表、「僕の歌は君の歌」と邦題がつけられたエルトン・ジョンの、初期のバラードの名作。本人も気に入っている曲らしく、近年でもコンサートでは必ず演奏されるナンバーだ。たおやかな手触りのメロディを持つ、大衆受けする曲ではあるが、ミュージシャンの間でも評価は高い。ロッド・ステュワートをはじめとした多くのキャリア組シンガーがカバーしており、故ジョン・レノンもこれを聴いて、

Great, that's the first new thing that's happened since we happened.(素晴らしい、僕ら[ビートルズ]が起こして以来、初めて新しいことが起きた)

といったという。

エルトン・ジョンについて簡単に記しておこう。本名はエルトン・ハーキュリーズ・ジョン(Sir Elton Hercules John, CBE[Sirはイギリスの栄誉称号、CBEはCommander of the British Empire、“大英帝国勲章”のこと])、生まれは47年、ロンドンに近いミドルセックス州のピナーというところで、出生名はレジナルド・ケネス・ドワイト(Reginald Kenneth Dwight)と書いた。ピアノを始めたのは4歳の時で、当初はバッハやショパンなどクラシックの曲を好んで弾いていたという。

こう改名したのは、69年のデビュー前後のことだった。敬愛していたという、彼がデビュー前に参加していたブルースロジャー(Bluesology)というバンドのメンバーだったエルトン・ディーン(Elton Dean)とロング・ジョン・ボルドリー(Long John Baldry)からとったものな

のだが、いささか安易と思えるほどにストレートなネーミングであるのはちょっと面白い。ギリシャ神話に出てくる英雄の“ハーキュリー”を使ったあたりも少し思わせぶりだ。この時期からマッチョ志向があったのか。

ファースト・アルバムの『エンプティ・スカイ』(Empty Sky。邦題『エルトン・ジョンの肖像』)はそれほど話題に上らなかったが、翌年に発表された、この曲も収まるセカンドの『エルトン・ジョン』(Elton John。邦題『僕の歌は君の歌』)がヒットを記録、いちやく名を知られる存在になる。以後、『ホンキー・シャトウ』(Honky Chateau)、『ドント・シュット・ミー・アム・オンリー・ザ・ピアノ・プレイヤー』(Don't Shoot Me I'm Only The Piano Player。邦題『ピアニストを撃つな』)、『グッバイ・イエロー・ブリック・ロード』(Goodbye Yellow Brick Road。邦題『黄昏のレンガ路』)等々良質のアルバムをコンスタントにリリースし、シングル・ヒットも連発。『グッバイ・イエロー〜』の発表に合わせて行われた70年代半ばの日本公演は観ているが、かなり充実したものだった。

90年前後にはアルコールと薬物依存症で活動は停滞するが、同年代前半に映画『ライオン・キング』(The Lion King)のサントラを手がけることで復帰。97年には、不慮の事故死を遂げたダイアナ妃にささげた「サムシング・アバウト・ザ・ウェイ・ユー・ルック・トゥナイト / キャンドル・イン・ザ・ウィンド 1997」(Something About The Way You Look Tonight / Candle In The Wind 1997、邦題「キャンドル・イン・ザ・ウィンド〜ダイアナ元英皇太子妃に捧ぐ」)を発表、これが世界的な話題になる。荘厳だった同妃の葬儀でもこの曲は唄われており、その様子は日本でも放映されたため、ご覧になった方も多いただろう。

この曲は『グッバイ・イエロー〜』収録の、「キャンドル・イン・ザ・ウィンド」(Candle In The Wind。邦題「風の中の火」のように[孤独な歌手、ノーマ

ジーン]]の歌詞を変えたもの。もとはマリリン・モンローにささげた(ノーマ・ジーン[Norma Jeane]はモンローの本名)ナンバーなのだから、これをデビュー当初からずっとエルトンとコンビを組んで詞作を担当してきたバーニー・トーピン(Bernard John “Bernie” Taupin)がダイアナのために、新たに作り直した……、というわけだ。

ゲイであり、2005年には男性の恋人と結婚して世間を騒がせもした。近年も精力的に活動を続けていて、同じ『ピアノ・マン』と呼ばれるビリー・ジョエルとのジョイント・コンサートなども頻繁に行っている。

この「ユア・ソング」、詞はやはりトーピンによるもの。言葉数がわりに多い彼のレパートリーの中では珍しくシンプルにまとめられたナンバーだが、情景や、出てくる人物の心情を巧みに切り取った、光る描写が随所に散りばめられているところがいい。その描写はエルトンの作る情緒豊かなメロディと巧みにマッチ、曲全体の味わいをぐんと豊かにしている。エルトン・ジョンの成功は、このトーピンなしではなかったともされている。

彼が残した言葉に、

I think that people should be free to engage in any sexual practices they choose.(人はその人が選ぶ性的行為には自由でなければならないと思う)

というものがある。少しばかり奔放すぎる気がしなくもないが、ゲイであり、自由を重視するアーティストらしい言葉といえそうだ。

YOUR SONG

Words & Music by Elton John & Bernie Taupin © Copyright 1969
by UNIVERSAL/DICK JAMES MUSIC LIMITED All Rights Reserved.
International Copyright Secured. Print rights for Japan controlled by
Shinko Music Entertainment Co., Ltd.

Your Song

Written by Bernie Taupin and Elton John / Performed by Elton John

It's a little bit funny this feeling inside
I'm not one of those who can easily hide
I don't have much money but boy if I did
I'd buy a big house where we both could live

If I was a sculptor but then again no
Or man who can make potions in a traveling show
I know it's not much but it's the best I can do
My gift is my song and this one's for you

And you can tell everybody this is your song
It may be quite simple but now that it's done
I hope you don't mind I hope you don't mind that I put down in words
How wonderful life is while you're in the world

I sat on the roof and kicked off the moss
Well a few of the verses well they've got me quite cross
But the sun's been quite kind while I wrote this song
It's for people like you that keep it turned on

So excuse me forgetting but these things I do
You see I've forgotten if they're green or they're blue
Anyway the thing is what I really mean
Yours are the sweetest eyes I've ever seen

And you can tell everybody this is your song
It may be quite simple but now that it's done
I hope you don't mind I hope you don't mind that I put down in words
How wonderful life is while you're in the world

I hope you don't mind I hope you don't mind, that I put down in words
How wonderful life is while you're in the world

胸の中にあるこの気持ちはちょっと変なんだけどね
そういう気持ちを隠せるタイプじゃないんだ
お金はあんまり持ってないけれど、だけれどもあれば
二人で住める大きな家を買おうだろうね

もし彫刻家だったらとも思うけど、それも違う
それか、旅の薬売りだったりとかも考えるけど
大したことじゃないよ、でもこれで精いっぱいなんだ
キミに贈ることができるのは、このキミのための歌だけさ

だからみんなにっておくれよ、これはキミの歌なんだって
ひどくシンプルだけど、こうしてできたんだから
気にしないでね、気にしないでね、こんなものをしたためたけど
キミがいてくれればなんて素晴らしいんだなんてね

屋上に座ってコケを蹴散らしてた
少しだけ気に入らないところはあるけれど
これを書いている時はいい陽射しだった
キミのように楽しませてくれる人の歌なんだ

ああゴメン、忘れちゃったよ、ただ僕がすることは
ああまた忘れちゃったな、グリーンなのかブルーなのかも
ともあれ、大切なのは、いちばん大切なのは
キミの目は本当に素敵だってことさ

だからみんなにっておくれよ、これはキミの歌なんだって
ひどくシンプルだけど、こうしてできたんだから
気にしないでね、気にしないでね、こんなものを書いたけど
キミがいてくれればなんて素晴らしいんだ、なんてね

気にしないでね、気にしないでね、こんなものを書いたけど
キミがいてくれればなんて素晴らしいんだ、なんてね



歌詞の読み方

“ちょっとヘンな気分なんだけどね”という意味の、**It's a little bit funny** という極めて口語的なセンテンスでスタートしていることがまず示すように、かなりくだけた一人称でつづられているところが印象的なナンバーだ。いってみれば“告白”のような口調なのだが、少し恥ずかしそうに“告白”しているニュアンスをとらえられれば、曲の暖かみはよく伝わるだろう。

短いながらも表情豊かなセンテンスが、**and** や **but**、また **well** などが使われて並んでいるところも特徴的で、そこも曲全体に独特の表情を与えている。そのため対訳では、ほかとは違ってカンマをちょっと多く使ってみた。そのニュアンスも感じ取っていただければ嬉しい。

まずいきなり気を惹くのは、口語的ないい回しで始まる最初のスタンザ(詩、歌詞などの一区切りのこと)にある、

I don't have much money but boy if I did

I'd buy a big house where we both could live

の、後半の2行。“お金があれば大きな家を……”と、夢物語のようなことをまず告白しているわけだ。少々ストレートすぎて、ともすれば子供っぽいタッチも感じ取れるが、“いっしょに住めるささやかな家”(tiny house which we can live together となるか)などと謙虚にせず、“大きな家”としたところがどことなく可愛らしくていい。

下の文の最初にある **I'd buy** は、**I would buy** の略。だから、“……買うだろうね”というニュアンスになるのだが、その裏には、“今は買えないけれど、買えるのであればぜひ……”といった気分が隠されていることも感じ取りたい。確かなぬくもりが感じられる歌声ゆえ、